

多摩市総合防災訓練に参加して

10月1日から2日にかけて行われた多摩市総合防災訓練には、林理事長以下理事全員のほか、多くの方々のご参加を頂き、誠にありがとうございました。

今年は、鶴牧、唐木田、中沢、山王下地区が対象で、市が参加要請した自治会、管理組合などの組織は27組織、そのうち19組織が参加しました。その中で当団地からの参加者が最も多く、第1部は32名、第2部は3名でした。

訓練は、午後2時30分の防災行政無線のサイレンによる発災の合図で始まり、参加者の皆さんには集会所前に集まって頂き、“安否確認”の点呼をとってから、のぼり旗「グリーンメゾン鶴牧3管理組合」を先頭に、第1部訓練会場の鶴牧中学校庭に向かいました。



校庭の周辺部には、ライフライン事業者など関係機関のテント・ブースと消防車や自衛隊車輛などが並び、校庭中央部にはのぼり旗も林立し、大勢の参加者が集まっていました。

会場には、消火・煙体験・地震体験コーナー、救助・搬送・救急コーナー、防災啓発・PRコーナーがあり、各コーナーを順番に回り、体験と見学をしました。



各コーナーには沢山の訓練メニューがあり、起震車による地震体験では、「とても怖かった」と言いながら、降りて来られた方もおられました。啓発・PRコーナーでは、防災グッズの展示や説明、配布もされており、その中には、給水所からの飲料水運びに便利なリュック機能もある水袋がありました。アルファー米の炊き立てご飯や豚汁もふるまわれていました。われわれ3名が参加した、南鶴牧小体育館での避難所運営（宿泊）訓練は、女性3名を含む16名と、市職員、同校校長、副校長ら約10名で行いました。

実際に避難所が開設される時には、市から来る職員は1名か2名で、主に市災害対策本部との連絡調整に当たるので、避難所運営に関わることは避難者が主体的に行わなくてはならないようです。

受付では、住所、氏名、生年月日、アレルギーの有無を記入しましたが、実際には、これとは別にペット連れの避難者名簿、ボランティアの名簿も、作る必要があるとのアドバイスを受けました。

宿泊訓練は、市職員の説明を受けながら、夕食用のお湯を沸かす訓練から始まりました。水袋をリレーして大釜を満たす給水、可搬型発電機の稼働、石油バナー点火などの訓練、沸くまでの間に、特殊器具を使った放置自動車移動訓練もしました。

食事の準備や賄いを、3名の女性参加者にして頂き、アルファ米のご飯、お湯で温めた缶詰、インスタント味噌汁での夕食を美味しくいただきました。避難所運営訓練では、市職員の手ほどきを受けながら、円滑に運営するための仕組み作りの練習をしました。

「避難所運営協議会」を設け、正副会長を選び、会長のリーダーシップで運営ルールや、名簿作り、食事の世話、資機材の搬入・配布、ごみの管理などの仕事の役割分担を決め、それについての話し合いを行いました。このほか、キャンプ用テントの展張、間仕切り作りの訓練、簡易トイレの組み立てなどの見学、心肺蘇生術・AEDの訓練もしました。

市が用意した寝具は、厚さ1cmほどの畳大のマットと毛布1枚だけで、その上に寝転んでみましたが、板の間に直に寝ているようで痛くて、とても眠れそうもないので、体育館の隅に積んであった厚いマットをその下に敷き、ジャンパーを畳んで枕がわりにしました。照明はほとんどで消して、トイレ近くの床に懐中電灯を置いて寝ました。翌朝は、全面芝生の校庭でラジオ体操をし、パンにバナナ、ジュースなどの飲み物で朝食を済ませ、片付けと清掃の後で感想を述べ合いました。

いい経験をしたなどの感想のほか、ペット連れの避難者用に教室の開放をとか、洋式トイレがない、五月雨で来る避難者への対応、後から来る避難者に伝える事柄の掲載場所がないなど、多様な指摘や意見、要望もありました。市としても、宿泊を伴う訓練は5回目くらいとか、8月の台風9号による大栗川が危険水位を超えた時の避難所設置が初めてのようでしたが、宿泊にはなりませんでした。

当団地は在宅避難を勧められていますが、そのためにも安心安全な自宅ではなくてはなりません。家具の転倒・移動の防止、火災の防止と慎重な行動を心掛けたいと、あらためて思いました。

また、在宅避難であっても、種々の情報の入手や食料、支援物資の調達に出向くこともあり得るかも知れません。その対応についても、考えておいたほうがいいかなと感じました。